

ロタウイルス感染症予防接種について

ロタウイルス

ロタウイルスは、感染力が非常に強く、急激な嘔吐と水様性下痢便、発熱が3割～5割程度みられます。重症化すると脱水やけいれん、腎不全、脳症などの合併症を引き起こし入院が必要になることもあります。

ワクチンについて

ロタウイルスワクチンは2種類あり、どちらも飲むタイプの生ワクチンです。医療機関で相談し、どちらかのワクチンを選んでください。**2種類とも、予防効果や安全性に差はありませんが、接種回数が異なります。**なお、特別な事情がない限り、**途中で種類を変更することはできませんので、最初に接種したワクチンを2回目以降も接種します。**どちらのワクチンも、ロタウイルス胃腸炎の発症そのものを7～8割減らし、入院するような重症化は、そのほとんどが予防できます。

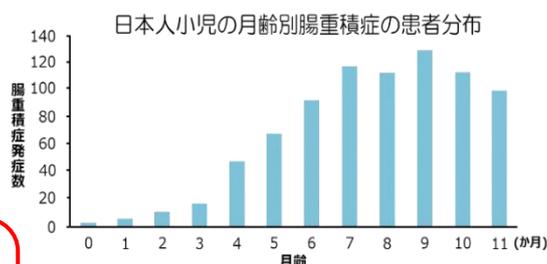
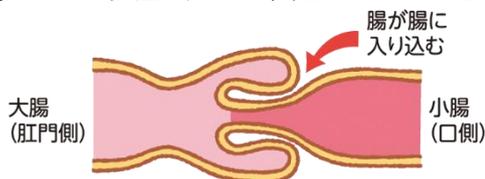
ワクチン名	ロタリックス	ロタテック
定期接種期間（※）	出生6週0日後から出生24週0日後	出生6週0日後から出生32週0日後
	初回接種の標準的な接種期間は、生後2か月から出生14週6日後	
接種回数	2回接種（27日以上の間隔をあける）	3回接種（27日以上の間隔をあける）
接種後、特に注意する事	接種後（特に1～2週間）は 腸重積症（下記参照）の症状に注意し、症状が見られた際には、すみやかに接種した医療機関を受診してください。	

（※）誕生日の翌日を1日後として算出します。（1週間後の同じ曜日が1週0日後となります）

腸重積症の既往がある乳児、発症を高める可能性のある乳児は接種できません。

腸重積症（ちょうじゅうせきしょう）について

腸重積症とは、腸が腸に入り込み、閉塞状態になることです（下図）。0歳児の場合、ロタウイルスワクチンを接種しなくても起こる病気でもともと、3～4か月ぐらいから月齢が上がるにつれて多くなります（下のグラフ）。早めに接種を開始し、完了させることがすすめられています。



- 泣いたり不機嫌になったりを繰り返す
- 血便がでる
- 嘔吐を繰り返す
- ぐったりして顔色が悪くなる
- お腹の張り

接種後（特に初回接種の1週間以内）に、上記のような症状が一つでも現れたら、腸重積症が疑われます。このような症状に気づいたら、すみやかに接種した医療機関を受診してください。

ワクチンを接種する前

赤ちゃんのお腹がいっぱいと、上手にワクチンが飲めない場合がありますので、接種前30分ほどは授乳を控えることをすすめます。上手に飲めるよう、医師、看護師の指示に従ってください。なお、ワクチンがうまく飲めなかったり、吐いたりしてしまった場合でも、**わずかでも飲み込みが確認できていれば、ワクチンの効果に問題ありませんので、再度接種する必要はありません。**

ワクチン接種後の注意

- ① 接種後30分間は、ショックやアナフィラキシーがおこることがありますので、医師とすぐ連絡がとれるようにして、お子さんの様子をみましょう。
- ② 接種後に高熱やけいれんなどの異常が出現した場合は、速やかに医師の診察を受けてください。接種した医療機関とは別の医療機関を受診する場合は、このワクチンを接種したことを医師に伝えてください。